



◀ 未来への希望を込めて、連風を揚げる卒業生

夢乃聖夏さん 多久をレポート

多久聖廟と岸川まんじゅうを全国に紹介

宝塚歌劇団員が、故郷を訪ねてレポートする番組『「翔け！すみれんず！」—全国ふるさとレポート—』で、星組の夢乃聖夏さんが、ふるさと多久の思い出の場所を紹介しました。夢乃さんが訪れた場所は、岸川まんじゅう森上商店と多久聖廟。全部の味を食べたことがあるくらい岸川まんじゅうが大好きで、森上公子さんと作り方や中身の具のことで話が弾み、あたたかい素朴な故郷の味を堪能しました。

また、多久聖廟にちなんで「聖」を芸名に入れている夢乃さんにとって多久聖廟はとても思い入れのある場所。夢乃さんは「宝塚を通じこのような形で多久市を紹介することができて光栄に思っています。改めて多久を見て、とても素晴らしい所だと思います。のんびりとしていて、変わらない優しさが残っているまち、そこは守り続けてもらいたい癒しのまちです」と話し、宝塚の舞台や九州新幹線のPR役「さがくらジェンヌ」として元気な活躍で、多久市もアピールしていきたいと語ってくれました。

放送は宝塚歌劇団専門チャンネル、タカラヅカ・スカイ・ステージで全国放送されます。

未来の自分・子どもたちへのそれぞれ思いを込めて

東部中学校卒業生の連風揚げ

3月4日に東部中で、卒業する生徒44人の前途を祝して、連風揚げが行われました。

この連風は卒業生をはじめ育友会父親部、学校の先生方が、それぞれ自分の将来の夢や思いを「1文字」に込めて書き記したひし形の風を全部繋げたものです。当日は快晴に恵まれ、真っ青な空に吸い上げられるようにグングン揚がって風にたなびき、卒業生の未来を示すような力強さに参加者から歓声が上がりました。

卒業生の真名子美幸さんは「高校に進んでも頑張る気持ちを忘れないように」と『努』の文字を、同じく山本真央さんは「人にやさしくする気持ちを大切にしたい」と『悠』の文字を書き、友人たちと笑顔で空を見上げていました。

また、3年1組担任の宮原先生は「太陽みたいにあたたかい気持ちを持つ大人になってほしい」と『燦』の文字を、2組担任の渡辺先生は「この風のように未来の太空に飛び出してほしい」と『飛』の文字を書き記し、教え子たちの成長を願って、生徒たちと空高く舞う連風を見つめていました。



▲よく訪れた多久聖廟をレポートする夢乃聖夏さん

3/9 手作りの 雑巾プレゼント！ 感謝の気持ちを伝えたくて

北部小6年の宮本弥穂さん、横山静子さん、野田千里さんが市役所を訪れ横尾市長に手作りの雑巾をプレゼントしました。



この雑巾は6年生72人が卒業プロジェクトとして計画し、1人2枚ずつ作ったもの。家庭科の授業だけで作れなかった時は休み時間も作成し144枚作りました。市長のほかにも先生方や校内の各学級、なかよし学級、児童館に「私たちの感謝の気持ちが伝われば」と卒業のお礼に渡しました。

3/6 日頃の練習の 成果を発揮！ 多久市すこやか長寿祭

多久市老人クラブ連合会（梶原信久会長）主催で、第23回多久市すこやか長寿祭が中央公民館で行われました。各町老人クラブや老人施設から約450人が参加し、40組が唄や踊りなど日頃の練習の成果を発表しました。今回は高齢者交通安全の寸劇もあり、「会場が笑いにつまれ、いつになく盛りあがった。歓声も多く大変良かった」と好評でした。

